

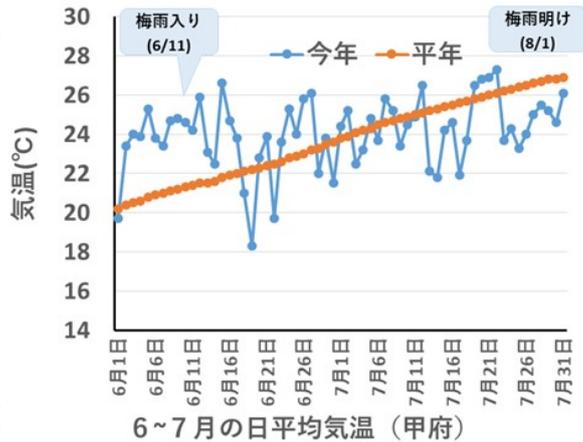
果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



病害虫防除を徹底する



- 今年の梅雨期は降水量が多く、曇雨天が続きました。特に7月中旬以降は日平均温度が平年比2℃以上低下し、べと病が発生しやすい環境となりました。
- 罹病した葉や果実は取り除き、ジャストフィットフロアブル 5,000 倍（使用回数3回、収穫30 日前まで）を散布し、その後は防除暦に従ってボルドー液を散布しましょう。
- また、園内の風通しの確保、排水環境の整備等普段から心掛けるべき作業についても再点検しましょう。



丁寧な収穫前管理により着色向上を



- ブドウ果実を鮮やかに着色させる色素は、果実内の糖分から作り出されます。
- 身近な園から3果房を収穫し、着色と糖度の関係を求めたところ、着色不良果房：17度以下、中間果房：17～20度、良好果房：19度以上と着色良好な果房では糖度が高い傾向でした。着色が良くなるためには高糖度である必要があります。
- 長雨により傷んだ樹を見かけます。症状に応じて病害虫防除や土壌の排水対策などを実施します。同時に新梢管理も行ない、棚面を明るく風通しの良い状態にします。
- また、大房傾向の園では着果房数を見直すとともに、粒数の調整、二番果の切除を行ないましょう。

着色不良果房 中間果房 良好果房

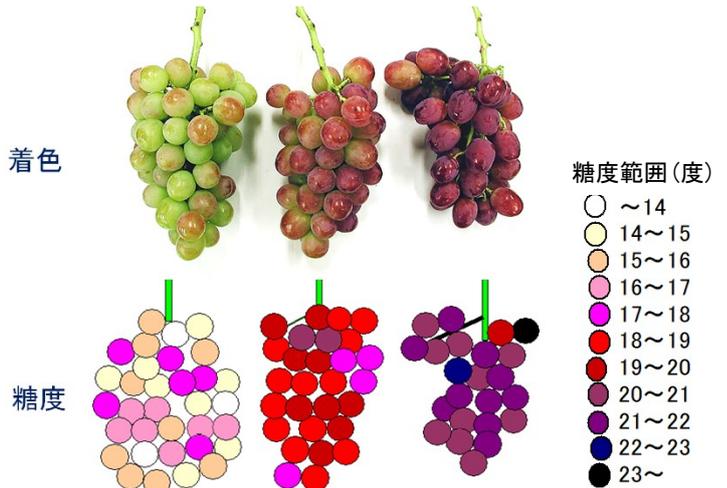


図. ブドウ(赤嶺)の着色と糖度の関係